

次期プランにおける施策について

	施策	進める上での課題	
目標1 「京都らしさを支える生物多様性の持続的な利用を可能にする。」	(1) 文化を支える生物資源の持続的な利用	・チマキザサ ・ヨシ ・アユ 等	・京都の文化を支える生物資源のうち、持続的な利用ができていない種の把握 ・持続的な利用のための取組を進める実施主体の確保
	(2) 自然の持つ機能を活かした緑と水辺の整備	・市街地の緑化 ・多自然河川づくり ・グリーンインフラ(雨庭)	・緑化や河川整備における生物多様性配慮の浸透(在来種使用等) ・河川整備における国や京都府との連携
	(3) サステナブルツーリズムの推進	・エコツーリズム(自然体験) ・グリーンツーリズム(農業体験) ・環境に配慮した観光(アメニティの削減)	・民間で実施されているエコツーリズムの把握と促進の仕組みづくり ・環境に配慮した観光の在り方の具体的な提示と観光事業者との連携
目標2 「生息・回復する。種の多様性を保全・回復する。」	(1) 重点保全地域における保全強化	・深泥池 ・八丁平 ・大原野森林公園 等	・行政管理地の対策強化 ・行政管理地以外の重点保全地域の現状の把握と支援の仕組みづくり
	(2) 里地里山の保全・回復	・シカ等による生態系被害対策 ・森林整備 ・農業における環境配慮	・生物多様性に配慮した農林業の促進 ・農耕地(生産緑地等)の維持・確保 ・里地里山の生物多様性の現状把握
	(3) 希少種の保全・回復	・フタバアオイ ・キクタンギク 等	・保全すべき希少種の把握
	(4) 外来生物対策	・特定外来生物の定着の防止, 防除	・市内に定着している特定外来生物の生息域の拡大防止
	(5) プラスチックごみへの対策	・プラスチックごみの削減 ・河川清掃	・生物多様性に配慮されたプラスチック代替製品の開発支援 ・マイクロプラスチックに関する調査の実施方法の検討
目標3 「ライフスタイルの多様性に配慮した。」	(1) 自然とのふれあいや学習の機会の充実	・自然観察会, 学習会	・若年層や無関心層への啓発強化 ・生物多様性の分かりにくさの解消
	(2) 生物多様性の学びの拠点	・京都市動物園 ・京都府立植物園 ・京都水族館 ・京都市青少年科学センター ・京エコロジーセンター ・さすてな京都 等	・各施設における生物多様性の発信内容の充実 ・民間も含めた連携施設の拡大
	(3) エシカル消費の推進	・地産地消 ・エコラベル ・食品ロス	・エシカル消費の促進方法
目標4 「社会変革に向けた仕組みを構築する。」	(1) 生物多様性に配慮した企業活動の促進	・サプライチェーンや土地利用の見直し ・CSR活動	・企業が取り組む必要性やメリットの提示
	(2) 生物多様性保全のネットワーク形成	・各主体との連携促進 ・活動団体への支援 ・担い手の育成	・担い手や資金不足を解消するための仕組みづくり
	(3) 公共施設・事業における配慮	・公共施設における生物多様性への配慮 ・公共事業における生物多様性への配慮	・庁内における調整
	(4) 情報の集約・発信	・ホームページ, SNSの活用	・情報発信力の強化
	(5) 知見の集積	・市民参加による自然環境調査	・市内の生物多様性の現状を評価するために必要な情報の収集と整理